

製剤学 1

【前期】金 3 植野 哲

ここで紹介された資料は蔵本 2 階授業サポートナビコーナーにありますので、どうぞご利用ください。

(同じ本が 3 冊以上ある場合は★の場所にもありますので、そちらもご覧ください)

図書

授業のテーマをつかみ事前学習や復習を効率的に進めるために、これらの図書を読むことから始めましょう

□ アトキンス 物理化学 第 10 版 上・下/ Peter Atkins, Julio de Paula 著/中野元裕 [ほか] 訳 東京化学同人 2017

→物理化学の代表的な教科書で、基本的な概念と理論の「考え方」に重点をおいています。第 8 版から全ページカラーになり読みやすくなりました。薬学部の皆さんにとってはなかなか取つきにくいとは思いますが、物理化学を基礎からしっかり勉強したい人にお薦めです。

【431||At||1,2】

□ 生命科学系のための物理化学/ Raymond Chang 著 東京化学同人 2006

→生命科学を専攻する学部学生を対象とした物理化学の教科書です。生体膜、DNA、タンパク質など生体分子系に対する適用例も豊富で、アトキンスの物理化学に比べると読みやすく理解しやすいと思います。

【431||Ch】

□ ライフサイエンス系の基礎物理化学/ 早川勝光ら著 三共出版 1995

→出版年は古いですが、生命現象を説明する道具としての物理化学の原理を平易に説くという方針に沿って、学部低学年でも理解できるように非常に分かり易く書かれている教科書です。物理化学が苦手な人にもお薦めです。

【431||Ha】

□ 界面・コロイド化学の基礎/ 北原文雄 著 講談社サイエンティフィック 1994

→コロイド・界面化学の教科書はいろいろとありますが、この本は入門書としてお薦めです。分子膜やミセルなどの分子集合体、界面張力やぬれなどの界面現象、微粒子分散系などについて、厳密さを損なうことなくほとんど理論式を使わずに分かり易く解説しています。

【431.8||Ki】

□ 分子間力と表面力 第 3 版/ J.N. イスラエルアチヴィリ 著、大島広行 訳 朝倉書店 2013

→1985 年の初版発行以来、コロイド・界面化学分野の枠を超え物理化学の教科書としても世界的に有名な名著です。なかなか内容は難しいですが、本格的にコロイド・界面化学の勉強をしたい人にはお薦めですので、ぜひ一度トライしてみてください。

※原著「Intermolecular and surface forces 3rd ed」(2011)も授業サポートナビコーナーにあります

【428.1||Is】